

平成25年度 事務事業マネジメントシート

事業名	幼児ことばの相談室運営事業（障害福祉係）			会計	款	項	目	大	小
政策	04	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	障害者支援課				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	小西 和典				

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	就学前の児童で、ことばの発達に遅れや障害のある児童	意図	ことばの遅れや障害に対して軽減または解消すること。
事業内容	流山市ケアセンター4階において、幼児期の発語の遅れや発音、吃音の状態に対して、言語聴覚士が専門的立場から症状の解消や軽減を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	現在、流山市ケアセンター内で支援を実施している。ことばの支援を希望する児童は、低年齢化の傾向がみられ、増加傾向にある。幼児ことばの相談室は単独で運営されていたが、平成16年度からつばさ学園療育相談事業と連動し、運営が行われるようになり効率的な運営になった。			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		支援延べ日数	225	216	216	日	
	支援延べ件数	1,236	1,315	1,450	件		
	支援修了人数			32	人		就学のため
	卒室人数			5	人	↑↑↑	構音、吃音症状が緩和されたため
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ことばの支援を希望する児童が増加傾向のため支援枠の確保の工夫として、利用園児の状態を確認し、週1回の支援児と月2回の支援児枠を設け支援をおこなった。 吃音を主訴とする児童が増えてきた。
事務事業のコスト		平成23年度	平成24年度	平成25年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		9,203,393	8,726,948	9,555,030			
事業費(b)(円)		8,824,593	8,368,048	9,205,680			
うち一般財源		8,824,593	8,368,048	9,205,680			
職員給与費(c)(円)		378,800	358,900	349,350			
人役・職員(人)		0.05	0.05	0.05			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

今年度(H25)の改善計画	言語聴覚士のことばの指導と個別支援計画の作成時間の確保をする。	取り組みの課題	パソコン購入により、個別支援計画書作成や事務作業が効率化され、保護者説明の時間の確保が出来るようにしたい。また、平成27年度児童発達支援センター化に向けての準備をする。
今年度(H25)に実施した取り組み	今年度は指導日を1日個別支援計画作成に充てて対応した。また事務作業の効率化のため、26年度パソコンを1台増やすように予算化する。	今後の改善計画	平成27年度児童発達支援センター化に向けて機構及び言語聴覚士の配置を考える。